

FKC魂が輝く生徒の育成

－ 地域に積極的に関わる生徒 －

扶桑町立扶桑北中学校

1 実践のねらい

- 扶桑町内の様々な世代の方々とともに活動する場をもち、地域との関わりを深め、地域へ貢献することで、明日の扶桑町を担う生徒を育成する。
- 地域で生き生きと活動する方や各種団体と連携を進めることで、校内の行事だけでなく地域の行事やボランティアへ積極的に参加する心を育てる。

2 実践の内容

生徒会企画運営会議にいただいた地域の方や各種団体の方からアドバイスをいかし、地域と連携した以下の取組を展開した。

(1) 青少年ボランティア ～ 地域に出向く 7月・8月 ～

生徒を始め地域で生活する人たちは、障害者や高齢者等と日常的に関わる機会が少なく、その関心や繋がりが希薄になってきている。そこで地域や社会福祉等でボランティアの体験学習をすることで、福祉の課題に気付いたり、地域社会との関わり・交流の中から地域の一員として自覚が芽生えるような、きっかけづくりになればと考え、扶桑町社会福祉協議会と連携し、毎年夏季休業期間を利用したボランティア活動に参加している。生徒会の福祉委員会が中心となって、全校に呼びかけ参加者を募っている。本年度は、8ヶ所の施設・事業所や7ヶ所の保育園に72名の生徒が参加し、暑さも忘れて地域の方と触れ合ったり、お年寄りや幼児等の世話をするなど、生き生きと活動してきた。生徒の取組が少しでも保護者や地域の方々を知っていただけるよう、HPを通じて配信した。

(2) 着衣泳 ～ 地域の方と共に活動する 8月 ～

家庭や学校、地域との連携が必要な今日、父親の新たな役割が模索されているだけでなく、PTA活動は母親が中心で、父親が学校・生徒たちと関わる機会が少ない。その現状から、「学校、地域、子どもたちと身近なおやじになろう」という趣旨で、本校では数年前から「おやじ倶楽部」が設立されている。クラブハウス内のロッカーの修繕や夏場の草刈り、長期休業時における夕方からの街頭指導等、生徒たちの見守りや触れ合いを大切にした活動が行われている。本年度は新たな試みとして、地域の広域消防施設に勤務されている「おやじ倶楽部」の会員の方を講師としてお招きし、「着衣泳」講習会を実施した。夏休みの出校日を利用して、第2学年150名を対象に自己の安全管理についての意識高揚を目的に行った。すでに小学校で簡単な「着衣泳」を学んでいるが、その応用編としての「着衣泳」を学ぶことで、救命救急に関する知識を伸ばし生命の大切さを知るだけでなく、参加して下さった講師の方は近隣の消防施設から来ていただいたこともあり、地域の方との触れ合いを一層深めることができた。



青少年ボランティア



着衣泳



教育講演会

(3) 教育講演会 ～ 地域と生徒と保護者がつながる 11月 ～

毎年11月の授業参観で、教育講演会を行っている。本校卒業生や地域の方の中には、文化的な活動で著名な人もいて、キャリア教育の一環として話をさせていただくことで「生き方」について学ぶことができる。本年度は「和の心」を生徒・保護者に体験してもらうため、「美楽の会（みらくのかい）」に所属していらっしゃる保護者の協力を得、盆手前と活け花の体験を実施した。生徒が点てたお茶を保護者がいただいたり、講師の方の指導の下、生徒一人一人が一輪挿しで花を活けたりすることで、人の心の品性を高め、文化性豊かな情操教育を進めることができた。

(4) ふれあい体験講座 ～ 地域の先生から学ぶ 11月 ～

例年、秋に実施している進取祭（文化祭）において、地域で活躍している方々を講師としてお招きし、「ふれあい体験講座」と称して、講座形式で学習を深めている。本年度は、11月22日（土）の午前、22講座を設置して行った。「組みひも」「絵付け教室」をはじめとした伝統文化だけでなく、「ファンキージャズダンス」「スポーツ吹き矢」といった目新しい内容の講座に至るまで、生徒たちは自分で選んだ講座に参加し、貴重な体験をさせていただいた。前向きな生徒たちの取組に、講師の方々からお褒めの言葉をいただいた。

(5) 走ろう会 ～ 地域行事に貢献する 12月 ～

扶桑町では、年間を通じて多くの文化的及び体育的活動が行われている。この「走ろう会」は町民の生涯体育振興の一環として実施されており、本校の生徒が補助員としてボランティア活動に取り組んでいく。



走ろう会

12月7日（日）寒風吹きすさぶ中の活動ではあったが、今年度生徒から募集した、扶桑北中マスコットキャラクターのデザインをあしらったボランティアスタッフ用のジャンパーに身を包み、各コースに別れて熱心に活動した。お年寄りから子どもまでが参加するこの大会で、一人一人に「頑張ってください。」「あと少しです。」と激励の声かけをする生徒たちに、大会関係者の方々からお褒めの言葉もいただいた。

3 実践の成果や課題

今回の実践で紹介したボランティア活動の多くは、ここ数年来ずっと継続している活動でもあり活動そのものが定着してきている。それは、生徒たちの取組が好評でもあるため、依頼が続いていると思われる。今までも活躍の場を学校通信やホームページ等で広く紹介してきたが、特に本年度は校内・校外を問わず熱心に活動できるよう、扶桑北中のマスコットキャラクター「足軽北チュウ君」を生徒会中心に作成したことで、扶桑北中生として誇りをもち意欲的に活動する生徒が増えてきた。ボランティア活動を通して、人のために努力するという奉仕の気持ちが芽生え、生徒会委員会活動への手伝い等、ちょっとしたボランティアに参加する姿が見られるようになってきた。また、地域の方々と触れ合うことで、地域でのあいさつや来校者へのあいさつがさわやかに交わされるようになり、スクールガードや評議員の方々からお褒めの言葉をいただいている。



【足軽北チュウ君】

ボランティア活動を通じ、少しずつではあるがFKC魂が輝く生徒が育ちつつある。しかし自発的なボランティア活動や地域への積極的な関わりまでには、まだまだ至っていない。今後は生徒会を中心に、生徒自身が自ら考え、計画し、実行していく活動を通して、少しでも地域へ貢献できる生徒を育てていきたいと思う。